

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

9
月号
No.237

通潤橋 (山都町: 写真提供 熊本県)

放水時には、多くの観光客が訪れる通潤橋という大きな石橋は、白糸大地に水を引くための水路橋であり、これにより約100町の田んぼが潤い、住民の暮らしを支えた。昭和35年には極めて重要な建造物として国の重要文化財に指定されている。

主な内容

- ・ 第45回衆議院選挙結果
- ・ JA たまな女性部活動報告
- ・ ガンバッテいます: 原田 幸二さん、中村智子さん
- ・ 各連合会からのお知らせ

わが国

その瞬間は、明けて八月三十一日未明であった。第四十五回衆議院選挙の開票は、民主党三百八議席、自民党百十九議席が確定し、民主党の歴史的な大勝で、劇的な政権交代が実現することとなった。そして自民党は、昭和三十年の結党以来半世紀にわたり政権を担ってきたが、今回初めて下野することが決定した。

「現実の数字を見ると風、と言うよりも嵐のすさまじさに息を呑む。これを生み出したのは政権交代を求める選挙民の沸々たる熱にちがいない。」(日本経済新聞)

「まさに怒涛だ。自民党の派閥重鎮やベテランが、無名だった新人候補にバタバタと倒されていった。国民は断固として変化を選んだ。」(毎日新聞)

「小選挙区のすさまじいまでの破壊力である。民意の劇的なうねりの中で、日本の政治に政権交代という新しいページが開かれた。」(朝日新聞)

「不手際につきで不人気は隠れもないその人を、天下分け目の一戦に担がざるを得なかった自民党一人材の枯渇ぶりに、『もはやこれまで』とサジを投げた有権者は多からう。」(読売新聞)

今回の衆議院選挙の確定投票率は小選挙区で六十九・二八%(同比例、六十八・二七%)となり、平成八年に小選挙区が導入されてから、過去最高の投票率を記録している。

国民は、これまでの政治の流れを変え、これからの時代の新たな社会の姿を求めてきたのかもしれない。今、民主党を中心とした政権の体制作りが着々と進められている。今後、この内閣がどのような政策を示し、国民の生活と未来をどのように導こうとしているのか、注意深く見極めていく必要がある。

今、わが国は、歴史の大きな転換期を迎えている。

衆議院選挙 農政連

公認・推薦候補が当選

第45回衆議院選挙で農政連公認・推薦候補が当選した。

8月30日、第45回衆議院議員選挙の
 投票が行われた。農政連の公認・推
 薦候補3人が当選した。小選挙区では
 公認候補の第4区園田博之氏、第5区
 金子恭之氏が当選した。また、九州ブ
 ロックの比例代表は自民党の野田毅氏
 (比例代表九州ブロック)の当選が確
 定した。

今回の選挙で農政連は、各小選挙区
 と比例代表九州ブロックの候補者につ
 いて、公認候補2名、推薦候補3名を
 決定した。

公認・推薦にあたり農政連は、農業・
 農村における農政課題について、候補
 者と農政連委員長との間で政策協定を
 締結、公認・推薦証書を授与した。

また、各小選挙区では盟友をはじめ
 青壮年部、女性部、農政連生産部会な
 どの組織、JA・連合会の役員等、
 JAグループの総力をあげて支援活動
 を展開してきたが、公認候補2名、推
 薦候補1名の当選となった。

小選挙区開票結果 (選管最終)

第4区			
当	園田 博之	自前	123,900
◎	松永 真一	国新	78,811
	河野 一郎	幸新	6,668

第1区			
当	松野 頼久	民前	137,048
◎	木原 稔	自前	97,585
	上野 哲夫	共新	9,729
	守田 隆志	幸新	2,907

第5区			
当	金子 恭之	自前	98,632
比	中島 隆利	社新	76,126
	南 政宏	幸新	2,723
	長友 清富	森新	1,520

第2区			
当	福嶋健一郎	民新	104,876
◎	林田 彪	自前	99,933
	馬郡 賢一	幸新	3,354

※比は比例代表で復活当選した重複者。 ◎は法廷得票獲得者

農政連推薦

比例代表九州ブロック



野田 毅(67才)

自由民主党 当選 13回

農政連公認

第5区



金子 恭之(48才)

自由民主党 当選 4回

第4区



園田 博之(67才)

自由民主党 当選 8回



▲ 8月13日 園田委員長が野田候補に推薦証書を渡す



▲ 8月13日 園田委員長が公認証書を園田候補に渡す



▲ 8月6日 中央会・連合会職員全体集会でガンパロウ三唱を行う



▲ 8月13日 園田委員長が金子候補に公認証書を渡す



▲ 8月18日 園田候補出陣式



▲ 8月18日 金子候補出陣式



女性部活動報告

■ JA たまな ■

JA たまなは、有明海に面した水田地帯から金峰山、小岱山の中山間地域で、女性部（三津家 敏子部長）は9支部1,730名で構成されています。

女性部では、各支部や地域と連携をとりながら活動しています。食の安全性に不信感が増大するようなか、私たち女性部は、食の安全・安心に重点をおき活動しました。元気な高齢者のふれあいミニデイサービス



学校給食用みそ作り



みそ贈呈式



地産地消…手作り料理

子供たちが地産地消を学ぶきっかけにと、地元産大豆で手作りみそ280kgを作り管内小中学校（65校）へ贈呈、給食メニューに登場しました。また、『親子わくわく体験農園』の子供たちとみそ作り、元気な高齢者との『ふれあいミニデイサービス』では楽しいレクレーションと、地元産の食材で手作り料理をふるまい、喜んでいただきました。

米麦部会との「大豆料理講習会」では、大豆料理・豆乳・手作りとうふなどに挑戦しました。

地元荒尾高校の『郷土料理講習会』では、121名の生徒達と3日間に渡り実習、初めて作る伝統的な料理に「楽しかった、おいしかった！家族に作ってあげたい！またいっしょに作りたい！」と食育活動を通して交流をはかりました。



親子わくわく体験農園～子供たちとみそ作り



JA あまくま女性部との交流会

荒尾高校生徒との郷土料理教室



みんなで作った南関あげ巻・カシれんこん・お姫様お汁

女性部では、毎年「家の光大会」「リーダー学習会」を開催、地域の催事へ参加、また他の地域のJA女性部との意見交換会、健康診断の実施など取り組んでいます。

恒例の「女性部ふれあいの旅」（2泊3日の旅／1泊2日コンサート付き）は多くの参加者で好評です。



きらめき発信たまな



原田 幸二さん
JAかみましき

JAかみましきの原田さんのお宅を訪
問しました。

ピーマンの収穫や次の作物の準備で忙
しい中に、取材させていただきました。

原田さんは、昭和28年1月生まれ。

高校卒業後、県外で働くも父や兄の勤
めで、地元に戻り農業に取組むことにな
りました。

現在、米1.7ha、サトイモ1ha、レタス80
a、玉ねぎ40a、人参40a、ジャガイモ80
a、こんにゃく40a、らっきょ10a、ピーマ
ン15a、梨27a、椎茸8万斤を栽培してい
ます。

■アイガモ・コイで有機農業

山に囲まれた冷涼な気候を活かしなが
ら、アイガモ農法による有機稲作に取組
んでいます。

アイガモの雛は6月頃、宅急便で届け
られ、用が済んだ8月には取引先に引き

取ってもらっています。また一部コイを
利用した米の無農薬栽培にも取組んでい
ます。コイは害虫や雑草をたべながら成
長、糞は稲の肥料になります。

米を中心に、土作りをしながら時期に
あった作物を多品目作って、認証のJA
Sを取得されています。

■地域とのつながり

「コブとの取引は、市況に左右されな
い契約栽培で、一定の収入確保が利点で
すが、出荷の数量確認や数量調整等々、毎
週の打ち合わせと農作業で大変忙しい。」
と話されます。

また、学校給食に地元で採れたニンジ
ンやレタスなどを提供しており、大変喜
ばれています。

「これからも安全・安心な農産物を、消
費者や学校給食の児童のために届けた
い」と話す姿に熱いものを感じました。

■仲間と切磋琢磨

山都町の有機農業は、研究会を作りJA
かみましきの指導や、仲間同士の交流で出
来上がったものです。

11月には有機協議会の首頭で、有機フェ
スタが行われます。有機農業関係者が一
同に集まり、有機農業のあり方や体験談・
意見交換などが盛り上がります。これから
も、地域の資源を活かした土作りや堆肥づ
くりなど、よりよい循環型農業を目指した
いと、意欲を見せる原田さんでした。

■好きな言葉

信念「目的を達成していくため、反省
をしながらも前を向いてやり抜いてい
く」と話してくださいました。



代表 中村 智子さん
JA熊本市塩屋地区フレッシュミズ「塩屋あじさい会」

■天水から河内へ

中村さんは天水町の出身。家業の事務
をしていました。後に今のご主人と出会
い、結婚。現在は四人のお子さんに恵ま
れ、河内町で暮らしています。

■花が咲いて、実になって

中村さん宅では、ご両親とご夫婦の四
名でミカンを2ha栽培しています。
小さな白い花から実になった時が一番
感動する、という中村さん。しかし、その
後に大仕事が続いています。ミカンは十
月〜十二月が収穫・出荷時期のため、とて
も忙しいとのこと。今では子供も手伝っ
てくれます。

大変な作業ですが、これからは省力化
を進める為、圃地、作業道の整備等によっ
て、人力の負担を減らすことを目指して
います。

■フレッシュミズでの活動

JA熊本市塩屋地区フレッシュミズ
は、「塩屋あじさい会」という名前前で活動
しています。実は飽田地区にも「あじさい
会」フレッシュミズ部会があり

ます。その理由を尋ねたところ、「たぶん
偶然だったのでは」とのことでした。

現在十二名の会員で活動。会員には農
業者だけでなく、他業種の方も参加。海苔
養殖業の方もいらつしやるそうです。主
な活動として、小会議、研修会（今年は島
原旅行）、料理講習等を行っています。い
つもの活動は、それぞれの仕事の都合上、
夕方、または夜に行います。今年八月に開
催した料理講習は、お互いが講師となっ
て、メニューを考え、それぞれの得意料理
を教えあう形にしました。

毎回八割の出席率ですが、活動できる
時期は四月から九月まで。十月から三月
までは、ミカンの収穫・出荷作業や海苔養
殖業で忙しい会員が多い為、活動を休止
するそうです。

■フレッシュミズの魅力

「子育てや仕事の両立は難しいですが、
活動に参加すれば、同じ地域内の人と交
流でき、より地域の様子がわかります。」
と中村さんは言います。

また、他業種の人も参加しているので、
農業にはない、違った世界を知ることがも
できるそうです。

■今後の抱負

中村さんは今後の抱負として会員を増
やすことを挙げ、「特に若い人に入っても
らいたい。外に出て、地域の人たちと話す
機会にして欲しいです。元気で話好き
のお母さん達がいるので、一人でも多く
の参加者を希望しています。一緒に参加
してみませんか？」と話されました。

日米FTA断固阻止緊急国民集会

JAグループをはじめとする農林水産団体などは8月12日、東京都の日比谷野外音楽堂で、日米FTA断固阻止を訴える緊急国民集会を開催しました。全国から農業者を中心に、第1次産業従事者ら約3,000人が結集しました。

熊本県からは37名が参加し、水田・園芸・飼料作物などの産地を抱える大農業地帯として、各県の参加者とともに、米国との自由貿易協定（FTA）への断固反対を訴えました。また、「日本の食だけでなく、地域経済を守るため、国民の理解と支持を得ながら、国民運動として、日米FTA断固阻止に向けて、運動していく」とする大会宣言を、満場一致で採択しました。



▲本県の参加者ら

農業体験で夏休みの思い出に 〜あぐりんツアー〜

JA熊本中央会は8月19日から20日の2日間、「夏だ、元気だ、集まれアグリ好きなきっすたち」と題して、菊池管内であぐりんツアー〜夏休み農業宿泊体験〜を開催しました。参加者は、4歳から小学6年生までの児童とその保護者35人。

これは夏休みを利用して、農業体験で食と農について学び、地域社会と深く関わる機会をつくることが目的で、1泊2日の農業体験は初めての企画。

1日目は、旬の梨狩りや肥育繁殖牛のえさやりなど農家の指導を通じて、農業の楽しさに触れました。またJA教育センターでは、JAやつしろ女性部による「はちべえトマト」「メロンの紙芝居と、接木の実習を習いました。宿泊は全員同センターで、夕食は地産地消も兼ね、バーベキューを実施、スイカ割り・花火大会も楽しみました。2日目は、県農業研究センターを視察、水稻の生育状況を学びました。



▲梨の収穫方法を学ぶ児童ら

県産畜産物消費拡大街頭活動

JA熊本経済連は、8月29日、熊本市の大通りアーケード内で、県産畜産物の消費を呼びかける街頭活動を行いました。

県産畜産物の消費低迷が続くなか、JAグループ熊本では、毎月29日を肉の日と定め、一般消費者や流通業界に肉の日の浸透を図るため実施。先月から販売が始まった「くまもと厳選味彩牛」、また、「くまもとのりんどうポーク」や熊本県産肉ハンバーグなど、225本の賞品を準備し、県産の畜産物へのアンケートを消費者に配布し、記入後、ガラポン抽選会を行いました。また、アンケートの回答者全員に、熊本県産牛肉や豚肉のPRチラシや、ポケットティッシュを配布。今後、毎月29日に、このような街頭活動を行い、安全・安心な県産畜産物の消費拡大を目指していきます。



▲アンケートに答える消費者ら

べてみたい。」などの声が聞かれ大好評でした。

夏秋野菜消費宣伝会

JAグループ熊本と県青果物消費拡大協議会、社団法人県野菜振興協会は8月31日、「野菜の日」にちなんで、熊日びふれず広場で夏秋野菜消費宣伝会を開きました。



▲試食する消費者ら

熊本県産の大根、キャベツ、トマト、ミニトマト、きゅうり、ナスなど12品目の旬の野菜を集め、即売。また2人分（700g）の野菜詰合せセットを100円で販売し、多くの買い物客が詰め掛けました。

県産野菜のPRと販売促進を図り、産地参加の対面販売による消費宣伝と野菜1日350g摂取運動がねらい。他にも、JA生産部会女性部による夏秋野菜料理の試食会も行いました。トマトのかき卵スープや、なすの味噌炒めなどを試食した消費者からは、「とてもおいしい。旬の味を感じられる」との声が聞かれました。会場に訪れた買い物客からは、「県産野菜だから新鮮で安心しておいしく食べられる」と大好評でした。

…… JA 共済連 ……

もしものとき8か月間無料で使える！

JA 共済の仮設住宅

JA 共済では、加入者への「ひと・いえ・くるま」の保障による安心の提供とあわせ、生活を支援するためのさまざまな福祉サービスを行っています。

この福祉サービスの一環として、火災や自然災害により住宅に居住できなくなった場合、JA 共済の「仮設住宅」を8か月間無料で貸し出し、被災者家族の当面の住まいと暮らしを支援しています。

住宅のタイプは、4坪、6坪、8坪の3つ。キッチン、トイレ、お風呂など生活に必要なものはあらかじめ備わっているので安心です。JA の長期共済等にご契約の皆さまならご納得もご利用いただけます（一定の要件を満たす方に限ります）。詳しくは、JA 窓口までお尋ねください。

応急住宅の「ご利用について」

ご利用できる方

生命総合共済契約者、建物更生共済契約者、火災共済契約者

ご利用条件

① 利用者が所有し自己の居住の用に供する住宅が、火災等または自然災害により、居住できなくなった

場合（原則として損害割合50%以上）でただちに修理・再建築を行うこと
② 被災後、30日以内に利用の申し込みを行うこと

〈応急住宅に含まれるもの〉

- ・ 畳
- ・ 網戸
- ・ 簡易トイレ
- ・ キッチン
- ・ 風呂
- ・ 天井パネル
- ・ 照明、コンセント



▶フラットタイプ



▶ユニットタイプ

◆ 応急住宅は提携している大和リースから提供します。

◆ 無料利用期間後も延長してご利用できます。（延長料は利用者負担となります）

★ 詳細はJAの窓口へお尋ねください。



JA 鹿本ジャンボスイカ品評会

（記録大幅更新!! 122キロ）

スイカの産地植木町で7月13日、ジャンボスイカの品評会があった。品評会は、JA 鹿本園芸部会OB会がスイカ産地の町をPRをしようと約20年前から開いている。この品評会にはJA 鹿本植木地区青年部野菜部会の18人も33玉を出した。

同町山本の高光昭典さんが育てた、重さ122キロの超特大サイズが優勝、従来の117キロを大幅に更新した。品種は米国原産の縦長「カロライナクラス」で栽培管理が難しい。優勝したスイカは、高光さんが3月に定植、手塩にかけて育てたもので全長103センチ、胴回り166センチ。出品作の多くは鑑賞用として展示される。



▲品評会に出品されたジャンボスイカ



▲高光昭典さんの超特大サイズが優勝

「よい食クイズ」
Q・背たけが4メートルを超える稲がある。
ウン？ ホント？

← 正解は裏面へ

あじがき

● 鶏頭の原種は、燃え立つような真紅色であり、その雄大な花姿は、花壇の中でひときり目立っています。



● **九月に咲く花【鶏頭】**
花穂の形がニトリの鶏冠(とさか)に似ていることからこの名前が付けられている。

最初は、染色用や食用に使われていたが江戸時代頃から品種改良が盛んに行われるようになり、現在のような多くの品種が作出された。

また、古くから人々の心を魅了した鶏頭は、日本最古の万葉集にも歌われている。
(花ことば) おしゃれ

ケイトウ科 一年草 アジアなど熱帯地方

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-1328-11284

FAX 096-1326-158007

訂正とお詫

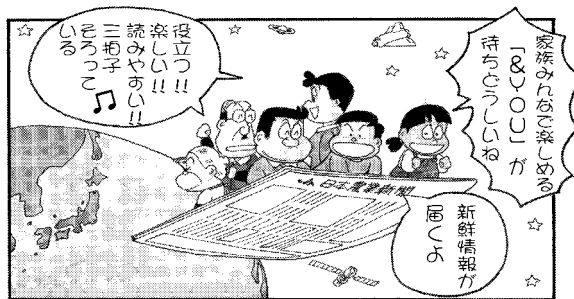
◆ 8月号の農政連新役員 肥後開拓農協組合長の名前を村松俊昭に訂正します。

食と農 ひらく未来へ確かな目



「食と農のかけ橋」面を創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶情報を素早く分かりやすく

役立つ情報を毎日▶農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ

日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円

JA熊本中央会

JA共済

マイホームの保障に、
自然災害への強さを。

地震、台風、豪雨、豪雪…。
さまざまな自然災害への大きな保障をお届けします。

自然災害の多いこの国で生まれた、自然災害に強いマイホームの保障。火災だけではない保障の幅広さ、さまざまな自然災害に対する確かな実績で選ばれている、「むてき」という名の安心です。

自然災害や火災などからマイホームを保障。

建物再生共済

むてき

詳しくは、お近くのJA（農協）へお問い合わせください。

09481050196

【よい食クイズ】

答え：ホント

タイやインドなどでは、雨季になると雨の量が増え、道路も田んぼも水に沈んでしまう地方がある。そこで栽培される稲が、背たけの高い「うき稲」だよ。雨がたくさん降っても、水の中に沈んでしまわないように、早く生長する。1日に数センチも伸びて、全長4～5メートルにもなるんだ。

JA全中発行「ごはんちゃんのお米クイズ（科学編）」より転載

2009年11月

JAグループ JA熊本経済連

ふれあい食材

JA FOODS DELIVERY SERVICE

JAのふれあい食材

リニューアル

選べるうれしさが
プラス!!

基本コース商品のみ

新オプションコース登場!

～プラスワンコース～